報告事項 No.　3

令和5年4月11日(火)から14日(金)までに小学校第4学年から中学校第3学年までを対象に実施した川崎市学習状況調査について御報告します。

令和5年度　川崎市学習状況調査　報告（概要）

★調査の概要

○　調査の目的

・**児童生徒・保護者は**、学習の取組を振り返り、課題を的確に把握し、**学習改善に生かす**。

・**学校は**、学校教育目標等で示した資質・能力の育成に向けて、調査結果を分析し、個に応じた指導や学校（学年）での**授業改善、教育課程編成等に生かす**。

・**校長会、各研究（部）会は**、教育委員会と連携して全市的な結果の分析と授業改善の具体的な手立て、個に応じた**指導の手立て等を研究し**、説明会や各研究（部）会の事業等で**教員に伝達する。**

・**教育委員会は**、全市的な児童生徒の学習状況を**経年調査することにより**、学習状況を把握・分析し、**教育施策の成果と課題を検証し**、**その改善を図る**。

○　調査の概要

調査対象	○小学校第４学年～中学校第３学年
対象人数	○市内全市立小学校の第４学年　11,688　名、第５学年　11,893　名、第６学年　11,805　名 ○市内全市立中学校の第１学年　9,482　名、第２学年　9,217　名、第３学年　8,998　名
調査の内容	○教科調査　小：国・算　　中：国・社・数・理・英 調査の目的に基づき、学習指導要領に定める内容 ○学習意識調査 児童生徒の学習や生活に対する意識等
実施時期	○小中ともに４月始業式翌週の火曜日～金曜日のうち各学校が設定する。学校の実態に応じて複数日で実施したり、学年ごとで実施したりした。 令和５年度は４月11日（火）～14日（金）

★調査結果の主な概要

○教科に関する分析結果の概要　【より児童生徒の状況を把握することが可能に】

【4層分析について】※令和5年度から導入

川崎市内の受検者を、小は2教科、中は5教科の合計点で並べ、上位から25%ずつをA～D層の4層に分けたもの。数値はA～D層のそれぞれの平均正答率を示している。

【4層分析パターン判定について】※令和5年度から導入

A層とD層の平均正答率の差が、50ポイント以上ある場合、層ごとの差の違い（層の間が一番離れている部分）により、右の3つのパターンで、表の「パターン判定」の欄に示される。

パターンⅠ…A層とB層の差が一番大きい。

パターンⅡ…B層とC層の差が一番大きい。

パターンⅢ…C層とD層の差が一番大きい。

【表の見方について】

【中学校社会の平均正答率と4層分析】

	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	AとD層の差	パターン判定
中1	52.3	76.9	58.5	45.8	29.7	47.2	
中2	48	73.7	54.1	39.9	24.5	49.2	
中3	52.9	80.1	61.1	44.5	25.7	54.4	Ⅰ

A層の数値からD層の数値を引いた数値

※A層とD層の差が50ポイント以上の場合、赤く塗りつぶされる。

例　第3学年の場合　80.1－25.7＝54.4

小学校

【小学校国語の平均正答率と4層分析】

	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	AとD層の差	パターン判定
小4	72.6	93.2	82.3	70.4	44.7	48.5	
小5	70.9	92.2	80.2	66.8	44.5	47.9	
小6	70.6	90.3	78.6	66.9	46.7	43.6	

○A層の正答率は約90%

A層の正答率に着目すると国語、算数ともに約90%である。

【小学校算数の平均正答率と4層分析】

	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	AとD層の差	パターン判定
小4	69.3	91.1	79.5	66.7	39.8	51.3	Ⅲ
小5	64.6	89.6	75	59.6	34.2	55.4	Ⅲ
小6	62.7	90.9	74.1	55.5	30.2	60.7	Ⅲ

●算数第6学年のD層は 30.2%

4層分析に着目すると、国語、算数ともにA層とD層の間に40ポイント以上の差がある。特に、算数の第6学年の差は 60.7 ポイントで、D層の正答率は 30.2%である。

中学校

【中学校国語の平均正答率と4層分析】

	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	AとDの差	パターン判定
中1	71.3	91.4	79.9	67.6	46.4	45	
中2	74	91.7	82.1	71.4	50.8	40.9	
中3	73.1	91	80.7	70.1	50.7	40.3	

【中学校社会の平均正答率と4層分析】

	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	AとDの差	パターン判定
中1	52.3	76.9	58.5	45.8	29.7	47.2	
中2	48	73.7	54.1	39.9	24.5	49.2	
中3	52.9	80.1	61.1	44.5	25.7	54.4	Ⅰ

【中学校数学の平均正答率と4層分析】

	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	AとDの差	パターン判定
中1	67.3	91.5	78	63	36.9	54.6	Ⅲ
中2	50.4	78.3	59.8	42.8	20.9	57.4	Ⅲ
中3	49.5	81.3	60	40.5	16.3	65	Ⅲ

【中学校理科の平均正答率と4層分析】

	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	AとDの差	パターン判定
中1	60.9	83.6	68.7	55.6	35.7	47.9	
中2	51.7	76.9	59.2	44.1	26.6	50.3	Ⅰ
中3	60.9	85.9	70.1	55.4	32	53.9	Ⅲ

【中学校英語の平均正答率と4層分析】

	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	AとDの差	パターン判定
中1	75.5	91.8	81.4	72.6	56	35.8	
中2	64.6	93	76.2	55.6	33.6	59.4	Ⅲ
中3	63.8	92.6	76.8	55.5	30.2	62.4	Ⅲ

○国語・英語のA層の正答率は90%を超える。

A層の正答率に着目すると、国語、英語は90%を超えている。

●D層の正答率は40%を下回る。

国語を除いた4教科のA層とD層の差は、学年を追うごとに大きくなっている。また、多くの学年・教科でD層の平均正答率が40%を下回っている。特に、数学の中3の差は65ポイントで、D層の正答率は 16.3%である。

○意識調査に関する分析結果の概要

※表の値は、質問に対する肯定的な回答(「よくわかっている」「まあわかっている」)をした児童生徒の割合(単位:%)

【教科の理解度】

・あなたは、次の教科の授業が、どれくらいわかっていますか。

	国語	社会	数学	算数	理科	英語
小4	86.3	81.2	84.3	90.4		
小5	86.6	83.5	78.6	89.8		
小6	87.4	85.6	73.7	87.7		
中1	79.7	68.8	69.6	71.4	66.2	
中2	81.9	62.9	59.6	63.3	66.3	
中3	79.5	68.3	63.9	65.6	60.3	

・国語

	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	のDA差層 l
小4	86.3	95.2	90.7	86	73.4	21.8
小5	86.6	96.7	92.1	86.2	71.3	25.4
小6	87.4	97.6	93.2	86.3	72.8	24.8
中1	79.7	93.3	86.3	77.2	62.5	30.8
中2	81.9	95	90.1	80	63.1	31.9
中3	79.5	92	85.5	78.6	62.3	29.7

・英語

	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	のDA差層 l
小4						
小5						
小6						
中1	66.2	88.4	75.4	59.9	41.5	46.9
中2	66.3	95	81.3	59	30.5	64.5
中3	60.3	92.7	76.2	49.3	23.1	69.6

・算数数学

	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	のDA差層 l
小4	84.3	96.2	91.5	84.2	65.3	30.9
小5	78.6	97	89.7	75.9	51.9	45.1
小6	73.7	98	88.8	67.5	40.6	57.4
中1	69.6	93.7	82.8	63.2	38.8	54.9
中2	59.6	92	74.3	49.5	23.6	67.4
中3	63.9	92.4	76.8	57.4	29.5	62.9

●D層の肯定的な回答は減少傾向

小4から中3までのD層に着目すると、肯定的な回答は学年とともに減少傾向にある。

○A層は約90%が「わかる」を実感

小4から中3までのA層に着目すると、肯定的な回答は約90%であり、大きな変化は見られない。

【学習に取り組む態度に関する児童生徒の意識】

・わからないことはそのままにせず、わかるまで努力している。

	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	DとAの差
小4	76	83.8	78.4	74.6	67.1	16.7
小5	73.2	85.4	77.1	67.6	60.3	25.1
小6	71.1	86.1	75.8	66.8	55.9	30.2
中1	70.6	82.5	74.3	68.1	57.5	25
中2	61.9	81.3	65.4	55.9	45	36.3
中3	63.6	84	69.4	58.4	42.7	41.3

【学習の理解に関する児童生徒の認識】

・授業で習ったことはそのまま覚えるのではなく、その理由や考え方も一緒に考えている。

	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	DとAの差
小4	74.9	81.4	76.9	74	67.4	14
小5	71.2	85.7	75.8	67.2	56.3	29.4
小6	71.8	88.2	77.6	67.2	54.7	33.5
中1	69.4	83.2	75.3	66.3	52.6	30.6
中2	62.9	81.5	68.4	57.7	44.1	37.4
中3	66	85.2	72.4	61.6	44.6	40.6

2つの質問ともに同じ傾向が見られる。

○A層の肯定的な回答は80%を超える。

小4から中3までのA層に着目すると、肯定的な回答は80%を超えている。

●D層の肯定的な回答は減少傾向

小4から中3までのD層に着目すると、肯定的な回答は学年とともに減少傾向にある。特に、「わからないことはそのままにせず、わかるまで努力している」では、中3では 42.7%となっている。

〇調査結果から見えてきた成果(〇)と課題(●)

【教科に関する分析結果から】

〇A層は、国語(小)、算数、国語(中)、英語については正答率が約90%であり、学習内容が確実に定着している。

●D層の正答率は40%を下回り、A層とD層は学年を追うごとに差が開く傾向にある。

●D層は、前年度までの学習内容の定着が不十分なまま新たな学習内容に進む。

【意識調査に関する分析結果から】

〇理解度において、A層は、どの学年においても約90%が「わかる」を実感している。

●D層を見ると、肯定的な回答は減少傾向にある。

●D層は、「わかる」を実感できていないことから、調査問題の正答率が低く、学習の定着が不十分である。

〇A層は、わからないことは努力し、理由や考え方にも着目している。

●D層は、わからないことを諦めてしまい、理由や考え方に着目できない。

以上のことから、**D層の児童生徒に着目**

全ての児童生徒が「わかる」を実感できる
授業の実現を目指して

学習状況調査の結果を生かした授業改善の視点として

1 「何がわかっていて、何がわかっていないか」について、児童生徒が自覚できるようにする。

① 既習を活用する（見通し）。
・「わからない」、「困った」を大切に
② 理由や考え方に着目させる。
・「どうして」「なぜ」を大切に
③ 振り返りの充実
・「そうか」「なるほど」を大切に

2 わからないことに対して諦めず、粘り強く取り組むために、ねらいを明確にしたペア学習やグループ学習を取り入れる。

① 題材、課題に向き合う。
・見る視点を持たせる。
② 自分の考えを持つ。
・解決するための手段や方法を持たせる。
③ 友達と解決する。
・「わかった」という実感を持たせる。

3 いつでもGIGA端末等を活用して、学習に取り組める環境を整備する。

① 児童生徒の自発的な取組
・自分自身の課題把握と学習意欲の醸成
②保護者、家庭との共有
・家庭学習の改善、充実
③GIGA 端末の活用
・学校や家庭でドリルパークなど学習ソフトの取組

政策推進

【キャリア在り方生き方教育の3つの視点から】

「自分をつくる」の視点から

・将来の夢や目標を持っている。

	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	DAの差
小4	74.9	81.4	76.9	74	67.4	14
小5	71.2	85.7	75.8	67.2	56.3	29.4
小6	71.8	88.2	77.6	67.2	54.7	33.5
中1	69.4	83.2	75.3	66.3	52.6	30.6
中2	62.9	81.5	68.4	57.7	44.1	37.4
中3	66	85.2	72.4	61.6	44.6	40.6

「夢や目標＝職業」と限定的に捉え、将来を描きにくくなっている。

「キャリア在り方生き方ノート」「キャリア・パスポート」の活用

●「キャリア在り方生き方ノート」

　将来の夢や目標を職業で描くのではなく、自分の好きなことや得意なことを踏まえて、なりたい自分の姿で描くことができるようにキャリア形成を支援することが大切になる。

●「キャリア・パスポート」

　児童生徒一人ひとりが自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自分の変容や成長を自己評価できるように活用する。

キャリア在り方生き方ノート

「みんな一緒に生きている」の視点から

・学級みんなで協力して何かをやりとげ、うれしかったことがある。

	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	のDA差層 l
小4	89.9	92	91.1	90.6	85.8	6.2
小5	89.3	90.9	90	90.8	85.4	5.5
小6	87.9	89.2	89.1	89	84.5	4.7
中1	87	88.9	87.8	87.5	83.6	5.3
中2	85.4	88.1	87.1	84.6	81.7	6.4
中3	85	87.8	85.7	85.7	80.7	7.1

・人が困っているときは、進んで助けている。

	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	のDA差層 l
小4	92.1	94.4	92.9	92.9	87.9	6.5
小5	91.5	93.4	92.1	92.4	88.3	5.1
小6	90.6	92.2	91.7	90.8	87.6	4.6
中1	91.5	92.1	91.7	92.4	89.6	2.5
中2	89.6	89.9	90.5	90.6	87.1	2.8
中3	89.1	89.4	90	89.6	87.5	1.9

全学年で肯定的な回答が多い。

児童生徒が集団で活動する良さを感じることができるよう、先生方が学級経営等の充実を図り、共生・協働の精神を育んでいる。

「わたしたちのまち川崎」の視点から

・今、住んでいる地域の行事に参加している。

	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	のDA差層 l
小4	60.3	61.2	59.3	58.2	62.7	-1.5
小5	56.9	58.1	57.7	58.2	53.7	4.4
小6	46.8	43.2	48.6	49.2	46	-2.8
中1	46.4	49.1	45.9	47	43.7	5.4
中2	40.1	39.2	40.9	42.3	38.1	1.1
中3	33.2	32.1	34.2	33.9	32.9	-0.8

地域に対して好感は持っているが、参加・参画につながっていない。

「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた
カリキュラム・マネジメント

●川崎市制100周年を契機にした「わたしたちのまち川崎」の学びの充実
●コミュニティ・スクールを活用した地域連携の推進

人権・多文化共生教育

・自分と違う意見も尊重している。

	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	DAの差
小4	88.4	93.2	89.7	88.1	82.6	10.6
小5	84.8	93.8	89	84.3	72.2	21.6
小6	86.9	93	90.7	87.9	76.1	16.9
中1	90.3	95.3	93	92.4	81.5	13.8
中2	91.6	95.5	94.5	92.7	83.6	11.9
中3	92.4	94.7	93.8	94	87	7.7

・私は、話し合いのとき、考えや意見を進んで出している。

	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	DAの差
小4	72.1	78.9	72.4	70.5	66.5	12.4
小5	66	73	68.9	64	58	15
小6	60.2	69.4	63.7	57.5	50.4	19
中1	56	65.9	57.1	53.8	46.9	19
中2	53.5	62.9	56.4	50.2	44.6	18.3
中3	52.9	62.6	54.1	49.6	45.2	17.4

自分とは違う意見を尊重しつつも、自分の意見や考えを進んで出せていない。

“学び合い”の機会を意識的に設ける。

＜実態に応じた取組の工夫＞

・児童生徒の意見や思いを受けとめるための環境整備

・児童生徒の発達の状態、生活背景を考慮

（「考えや意見を出さない」児童生徒の背景を教員が想像して対応）

・「子どもの権利学習」の実施

「参加する権利」について学ぶ機会を設けることで勇気づけられ、権利の実現に向かうきっかけになる。

情報・視聴覚センター

・GIGA 端末は学習の役に立つと思う。

	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	のDA差層l
小4	91.4	94	92.7	92.5	86.2	7.8
小5	91.9	93.5	93.6	93.2	87.4	6.1
小6	91.5	91.7	92.5	92.3	89.4	2.3
中1	91.3	92.8	92.5	92.1	87.8	5
中2	88.2	89	90.2	88.7	84.8	4.2
中3	88.2	88.6	88.8	89.5	85.8	2.8

○全学年90%前後の肯定的な回答

小4から中3までの各層に着目すると、肯定的な回答は80%を超え、各層の差は開きがない。

小学校
・高学年になるにしたがって差が縮まっている。
→発達段階に応じた指導の結果、端末活用頻度によるもの
→学年が進むにしたがってその意識が強くなっている。

中学校
・継続的な活用により、教科調査によらず、多くの生徒が学習上のGIGA端末の有用感を感じている。

・前の学年までの授業で、ICT 機器をどの程度使用しましたか。（選択肢別回答割合）

	ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上	週1回より少ない	その他無回答
小4	22.8	30.2	27.8	17.8	1.4
小5	27.5	35.4	25.9	10.4	0.8
小6	31.4	37.4	22.9	8	0.3
中1	44.4	33.8	14.1	4.8	3
中2	32.7	39.4	19.5	6	2.3
中3	37.6	40.5	16.8	4	1.1

●「ほぼ毎日」使っているは約20～40%程度

「ほぼ毎日」使っている学校は2～4割程度にとどまっている。「週3回以上」と加えると5～8割程度の学校が授業において活用している。

令和5年度からは、ステップ3の取組となり、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が一体的に充実する「一人ひとりの子どもが主語の端末活用」を目指す。そのためには、探究的な学習の過程である「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」「振り返り活動」を入れて、日常的に毎時間取り組んでいくことが必要となる。授業形態を「子どもが主語」に置き換えることで、さらに GIGA 端末の活用率も向上することが期待できる。

児童生徒に情報活用能力を育成するためには、GIGA 端末を活用した学習を、どの教科でも日常的に行うことが求められている。

小中学校での取組

★令和4・5年度モデル校（小学校）の取組

○令和4年度の結果と第4学年（小4）の分析

【学びに向かう力】

・私は、友だちの話に賛成・反対・つけたしと、つなげるように発言している。

	○○小	○○小学力層別				
		A層	B層	C層	D層	DとAの差
小4	65.4	65	52.6	68.4	75	-10
小5	62.1	77.3	63.6	61.9	45.5	31.8
小6	67.3	78.6	78.6	53.8	57.1	21.5

・ふだんから「不思議だな」「なぜだろう」と感じることがある。

	○○小	○○小学力層別				
		A層	B層	C層	D層	DとAの差
小4	48.7	55	63.2	36.8	40	15
小5	64.4	81.8	72.7	47.6	54.5	27.3
小6	72.7	71.4	92.9	61.5	64.3	7.1

○「つなげる発言」はD層が高い。

友だちの話をつなげる発言は、小4のD層の児童に着目すると75%と学年の中で最も高い。

●「つなげる発言」は、B層が約50%

小4のB層に着目すると、52.6%と他の層に比べて低く、D層との差は20ポイント以上開いている。

●「不思議だな」「なぜだろう」と感じる第4学年は50%以下

小4の全体に着目すると、肯定的な回答は48.7%と他の学年と比較すると最も低い。

●第4学年の授業改善

校内研修を通して学校全体で「伝える力の育成」を重視することとなり、第4学年としては、「つなげる発言」「不思議だな」「なぜだろう」の質問項目に着目した。分析を経て、表現することに着目し、意図的・計画的な少人数グループ活動を行ったり、GIGA端末を活用したりすること、児童が「なぜだろう」などと「問い」が持てるように、問い返したり、次の学習に対する見通しを立てさせたりすることを手立てとして取り組んだ。

○令和5年度の結果と第5学年(小5)の分析

【学びに向かう力】

・私は、友だちの話に賛成・反対・つけたしと、つなげるように発言している。

	○○小	○○小学力層別				
		A層	B層	C層	D層	AとDの層の差
小4	82.9	94.4	77.8	88.9	68.8	25.6
小5	67.1	63.2	78.9	73.7	52.6	10.6
小6	62.8	63.6	61.9	81	45.5	18.1

・ふだんから「不思議だな」「なぜだろう」と感じることがある。

	○○小	○○小学力層別				
		A層	B層	C層	D層	AとDの層の差
小4	70.8	88.9	72.2	72.2	50	38.9
小5	59.2	73.7	78.9	57.9	26.3	47.4
小6	75.6	77.3	76.2	76.2	72.7	4.6

●第5学年の授業改善

伝える力の育成に関連して、「つなげる発言」の質問については、前年度と同程度の結果となっており、昨年度の取組を継続していく。また、「なぜだろう」と感じることについては、成果が出ているが、**小4、小6より低いこと、D層が26.3%であることから、さらに、学習課題や教材を工夫**する。

○同一母集団による経年比較

・私は、友だちの話に賛成・反対・つけたしと、つなげるように発言している。

	○○小	○○小学力層別				
		A層	B層	C層	D層	AとDの層の差
令和4年度小4	65.4	65	52.6	68.4	75	-10
令和5年度小5	67.1	63.2	78.9	73.7	52.6	10.6
令和6年度小6						

・ふだんから「不思議だな」「なぜだろう」と感じることがある。

	○○小	○○小学力層別				
		A層	B層	C層	D層	AとDの層の差
令和4年度小4	48.7	55	63.2	36.8	40	15
令和5年度小5	59.2	73.7	78.9	57.9	26.3	47.4
令和6年度小6						

○「なぜだろう」の増加

小4が小5に上がり、「なぜだろう」と感じる児童は約10%増加している。

●「なぜだろう」のD層30%を下回る。

「なぜだろう」と感じる令和5年度のD層の児童は26.3%であり、他の学年と比較すると10ポイント以上低い結果となった。